

パブリック・サービス研究分科会 2009年10月例会	
「SA(Student assistant)を活用した大学図書館の今後について(仮)」研究グループ報告書	
日時	2009年10月19日(月)
場所	実践女子大学
記録	内藤(学習院大学)
出席者	川端(多摩大学)、北原(相模女子大学)、小松(日本赤十字看護大学)、矢ヶ崎(成城大学)、内藤(学習院大学)、他1名
欠席者	小松(東京家政学院大学)、寺久保(東海大学)、西嶋(東京農業大学)

1. 進捗状況

各自の担当部分(前回の合宿での宿題)について、状況報告とまとめをそれぞれ発表した。

次に、今までの研究の流れを大まかにさらった上で、研究報告に向け論旨の流れについて再設定を行った。また、12月の研究報告大会用の資料作成担当者(内藤)を決定した。

再設定した研究報告の概ねの流れは以下の通り。

- ① 大学図書館の現状(人的側面から) → なぜSAが必要なのか
- ② アメリカのSA事例
- ③ 日本のSA事例
- ④ 日本のSA事例(分科会内アンケートから)
- ⑤ SA実施までの手順の提案
- ⑥ SAの効果、今後への期待
- ⑦ まとめ

2. 次回の予定

- ※ 12月の研究報告大会発表に向けたリハーサル第1回目
(担当者は要旨・プレゼンテーション用スライドを作成しておくこと)

以上